

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医務費

事業名 岐阜県医学生修学資金貸付金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係

電話番号：058-272-1111 (内 2625)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 353,489 千円 (前年度予算額：370,311 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	370,311	0	0	0	0	0	16,800	0	353,511
要求額	353,489	0	0	0	0	0	18,600	0	334,889
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内の医師数は全国平均数を大きく下回っており、医師不足は深刻な状態となっている。

人口10万人あたり医療施設従事医師数	全国平均 246.7人
〃	岐阜県 215.1人

(2) 事業内容

将来、県内の医療機関において勤務し、地域医療に貢献する意思のある医学生に対して、岐阜県医学生修学資金(第1種・第2種)の貸付けを行う。医師免許取得後一定期間県内医療機関で勤務した場合、返還を免除する。

平成31年度入試より、岐阜大学医学部地域枠で新たに「地域医療コース」の募集を開始する。地域医療コース入学者は、従来の修学資金に上乗せした額を貸与するが、医師免許取得後出身市町村で一定期間勤務する必要がある。なお、上乗せ分の修学資金については、出身市町村が負担する。

【貸付対象者】

第1種：岐阜大学医学部地域枠入学者

第2種：岐阜大学医学部在学者（地域枠入学者を除く）及び他県の大学医学部在学者

【貸付金額】

第1種：入学金 282 千円（初年度のみ）、授業料 535.8 千円、
月額 100 千円（地域医療コース入学者：月額 200 千円）

第2種：月額 100 千円

【所要経費】

・新規分 80,499 千円

第1種 68,499 千円（@2,017.8 千円×18 名、3,217.8 千円×10 名）

第2種 12,000 千円（@1,200 千円×10 名）

・継続分 272,990 千円

第1種 234,590 千円（@1,735.8 千円×126 名、2935.8 千円×6 名）

第2種 38,400 千円（@1,200 千円×32 名）

（3）県負担・補助率の考え方

県単独事業（地域医療コース入学者にかかる修学資金の上乗せ分については、当該学生の出身市町村が負担）

（4）類似事業の有無

なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
貸付金	353,489	将来県内で医師として勤務する医学生への貸付け
合計	353,489	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

第7期岐阜県保健医療計画

事業評価調書

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
医療施設従事医師数を2023年度時点で4,553人にするという「岐阜県医師確保計画」の目標医師数を目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
医療施設従事医師数	4,295人 (H30)	人 (H)	4,295人 (H30)	4,553人 (R5)	94.3%
	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
令和2年度においては、以下のとおり貸付けを行った。
(1) 新規分（26名）
第1種修学資金（20名、うち地域医療コース2名）、
第2種修学資金（6名）
(2) 継続分（175名）
第1種修学資金（138名）、第2種修学資金（37名）

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
令和元年度までに当修学資金貸付事業により貸付けを受けた者のうち78名が、令和元年度新たに県内の病院で初期臨床研修を開始した。
これにより、当修学資金受給者で県内の医療機関で勤務及び臨床研修に従事しているものは、令和2年4月1日時点で209人となった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県内の医療施設で勤務する医師の確保に直結するため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	医学生修学資金受給者のうち、令和元年度において県内の医療機関で78名が臨床研修を行い、131名が業務に従事しており、また、35名が業務従事期間終了後も引き続き県内にて勤務していることから、今後も着実に増加していくことが見込まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	修学資金受給者の日々の管理事務において、受給者の状況を一覧にした台帳を整備することにより、効率的な管理が可能になった。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>当修学資金貸付事業は、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムと一体となって行う事業であるため、今後、修学資金受給者に対しコンソーシアムを積極的にPRし、連携して医師の適正配置等に効果を発揮したい。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>地域医療の確保という強い県民ニーズがあり、岐阜県長期構想目標数値を含む一定の成果を挙げるまで継続すべき事業である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	